

NEWS!

Vol.37-2
No.188
平成30年4月号

編集・発行
松浦機械製作所

平成30年度新入社員入社式 ～マツウラの社員として第一歩が始まる～

平成30年度新規学卒者の入社式が4月2日に松浦機械製作所本社にて、執り行われました。

今年度はマツウラ本社へ21名、IMNへ2名入社致しました。入社式では、松浦社長が新入社員に向けて、「これから社会人になるにあたって、学生の時とは違い、社会人の責任と協調性が要求されます。マツウラは皆さんに何を期待しているかをお伝えします。仕事をする中で失敗することはありますが、失敗を恐れず、何事にもチャレンジしてください。そして、一通り仕事に慣れてきたら、自分の仕事にこだわりを持ってください。こだわりを持つという

ことは、マツウラのモノづくりの基本です。皆さんがプロフェッショナルとして、会社に貢献する人材になることを大いに期待しております」と祝辞を贈りました。新入社員を代表し、江川涼一さんが「一人前の社員、そして責任ある社会人となるべく、決意を新たにしております」と決意表明を致しました。

新入社員は4月より研修を受け、7月に各部署へ配属されます。

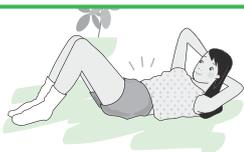
この日より、23名の若い力がマツウラの仲間として新たに加わりました。2035年創業100周年に向けて、新しいことに果敢に挑戦し、世界のモノづくりに貢献することを期待します。



▲新入社員

日本のヘソ

福井 No.186



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第186回目は「幕末の福井藩主松平春獄」の話です。春獄は、幕府支持か、武力倒幕かを越えた「第3極」の人物として、全国的な注目を集めています。昨年12月26日には直木賞作家葉室麟（はむろりん）氏の歴史小説「天翔（あまか）ける」が発売され、春獄の幕末から明治の人生が書かれています。またNHKの幕末ドラマ「龍馬 最後の30日」が放送され、春獄を重要人物として登場させていました。

昨年1月に坂本龍馬が暗殺される5日前の書状が発見されました。この書状は、京都・福井藩邸に滞在

中の福井藩重臣・中根雪江宛のもので、この中で龍馬は初めて「新国家」との言葉を使い、春獄への龍馬の大きな期待が書かれています。またNHKドラマも、この龍馬の手紙に注目して作成されています。「大政奉還後、龍馬の活動の中心は福井藩と春獄にあったのではないか」との考えで、内戦を避け新国家をつくろうとする龍馬にとって、春獄は最大の理解者だったとのストーリーが組み立てられました。

春獄は、幕末中枢を仕切る一方、明治の新政府でも要職を任されました。今年は明治維新150周年です。この時に松平春獄が注目を集める歴史の必然性を感じ、また福井人として春獄を多く語りたいと思います。